

この低額回答！！ 客観的に納得できますか？

2024年度年末手当のたたかいは組合員・社員の生活実態(賃金抑制と物価上昇による生活苦)に加え、「融合と連携」により“過去最高の働き度だ”と職場から悲痛な声が出される中、年間6ヶ月以上をめざし、3.7ヶ月要求を掲げ、現場第一としない経営姿勢に立ち向かってきた。

会社から示された**2.9ヶ月**といった回答は赤字コロナ禍およびこの1年間の奮闘からすると到底納得できる回答ではない。しかも「現場の労苦は重く受け止める」としつつも**最大限の回答が2.8ヶ月。0.1ヶ月の加算は構造改革の進展と成果、物価上昇等に伴う生活実感**との回答であった。

下記は2023年度と2024年の年末手当の単純な比較です。

年度	社員数	平均基準内賃金	妥結(月数)	支給額
2023	45,700人	339,476円	2.65+50,000円【約2.78】	957,300
2024	44,000人	355,868円	2.8+0.1【2.9】	1,032,000
比較	▼1,700	△16,392	△0.12	△74,700

組合員・社員の頑張りでも黒字化を果たし、安全を第一にまた「増収増益」目指し必死に働いてきたにも関わらず、**昨年よりも0.12ヶ月**しか上がっていません。また、この**0.12ヶ月**から「構造改革の進展等で加えた**0.1ヶ月**」を引くと1年間の努力は**驚きの0.02ヶ月=約7,000円**しか上がっていません。



「職場の声を受け止めるを連呼」しかし、回答の修正はなし

交渉で会社は「職場の声を受け止める」を連呼するも、「最終判断であり、再回答の考えはない」との回答です。**現場の労苦、頑張り**は「見えていない」、「見ない」事がはっきりしました。

組合員・社員のみなさん！現場での奮闘を冷遇する経営姿勢を正していかなくは私たちの生活は守れません。勇気を持って声を出し、行動に移して東労組と共に閉塞感を打破していこう！！

東労組と共に経営姿勢を正していこう